

2013
4月
第42号

かい 陽

公民館報



人権ポスター



海陽町公民館大会パネル展

平成24年度 海陽町公民館大会 生涯学習推進大会



落語家
桂 七福さん

平成25年2月24日(日)海南文化館において、『つどい
つながり きずなを深める公民館活動』を大会テーマに町内
の公民館関係者をはじめ、社会教育関係者、およそ280人
が集まりました。

若井公民館長、五軒家町長の挨拶の後、落語家桂七福さんを
迎えて「笑いは心の深呼吸」という演題で講演と落語が行わ
れ、魅力ある話術で笑いに包まれました。

また、午後からはカラオケや民謡・舞踊などの公民館交流
芸能大会が行われ、地域の皆さんによる日頃の稽古の成果が
披露されるなど、充実した1日となりました。

ありがとうを伝えたい私からの手紙



写真・ 人権パネル展



各地区共栄運動会写真展示



人権啓発標語(小・中学生作品)



人権パネル展示



差別落書き防止パネル



交流芸能
大会



身近なことから考える人権

いま、できること！

森が燃えていました

森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名の

ハチドリだけはいつたりきたり

口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは

火の上に落ちていきます

動物たちはそれを見て

「そんなことをしていったい

何になるんだ」と

いつて笑います

クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることを

しているだけ」

「ハチドリのひとしずく」

辻 信一(沢光文社)

これは、南米のアンデス地方に伝わる、「小さいことの積み重ねの大切さ」を教えてくれる話です。世代を超えた多くの人の感動を呼び、「共感」の輪が静かに広がりました。

他のことをとやかく言うので

はなく、「私は、私にできることをしているだけ」と、黙々と水のしずくを運ぶハチドリの姿が目に浮かぶようです。

一人でできることは小さなこと

ともあれませんが、たとえ小さなひとしずくでも、みんなの

「いま、できること」が集まれば、

大きな力になります。私たちも、

自分にできることを力いっぱい

やってみませんか。

すべての人が人間として大切に

にされ、幸せに生きるためには、

人権について正しく理解し、家庭や職場、地域社会で、自分を

大切にするとともに、他の人も

大切にすることが大切です。

家庭では：

家庭はすべての教育の出発点

です。家族とのふれあいを通して、幼い頃から豊かな情操や思

いのやり、命を大切にすること、善悪の判断、基本的な生活習慣や

マナーを身につけるなど、人間としての基礎を育む上で家庭の

果たす役割はきわめて重要です。

家庭の教育力の向上を図り、親や周りの大人が偏見を持たず、差別をしないなど、日常生活の中で子どもたちのよいお手本となる必要があります。

職場では：

一日のうちでも長い時間を過ごす職場では、職場そのものが重要な生活の場になっています。

日々の仕事を通して人権を考えるとともに、誰もが働きやすい

職場環境をつくるのが大切です。企業も社会を構成する一員

としての責任や社会への貢献が重要とされていることから、人

権についても従業員の研修や啓発活動などへの積極的な取り組みが期待されています。

地域社会では：

さまざまな人が暮らしている

地域社会では、価値観がますます多様化しています。性別や年

齢、障害の有無、住む場所や国籍などに関係なく、「互いの違い

を認め、助け合い、支え合い、つながり合う関係をつくること」

「互いを人間として尊重する意識や思いやりの心を育むこと」が

大切です。町内でも人権に関する講演会やコンサート、映画会、

分館研修等が開催され、健康づくりや仲間づくりを通して人と人とのかわりを豊かにする取り組みもなされています。皆さんも参加してみませんか。

あなたにできることは：

人として正しいことだろうか

と考えること。日々のくらしの中

で人権を意識すること。例えば、誰に対してもいい言葉

葉づかいを、誰にでも公平な態度をなど、自分にできることを

心がけてみましょう。一人ひとりに「いま、できること」は、

いろいろありそうに思います。

- 心をこめてあいさつをする
- 因習や迷信を見直す
- いのちを大切にすること
- 差別的な言動をしたときに注意しあう
- うわさに流されない
- 差別をしない自分になる
- 思い込みや決めつけをしない
- 差別につながる身元調べなどをしない
- 「人権」に関心を持って新聞などを読む
- 自分をふりかえってみる
- 世間体にとらわれない
-

第8回 海陽町文化協会祭

会場：阿波海南文化村



作品展示

5月2日(木)正午～5月6日(月)

絵画 写真 書道 水墨画
俳句 短歌 川柳 絵手紙 押し花アート 等

芸能発表

5月12日(日) 午後1時30分～

カラオケ 民謡 日舞 阿波踊り 太鼓 琴 三味線
合唱 ダンス お手玉 詩吟 端唄 手品 等



体験教室…5月3日(金) (AM10:00～PM3:00)

押し花体験教室(マグネット・ストラップ等)

料金/材料費 100円～



場所：海南文化村中庭

時間：AM10:00～

● 子どもの日 いっしょにあそぼう
(劇団レインボー)

・緑日コーナー (有料 30円金券)

・シャボン玉コーナー、ヨーヨー釣り AM10:00～ (無料)

● キッズスポーツ (海陽愛♥あいクラブ)…無料

・昔あそび(ベーゴマ ビー玉 メンコ遊び 等) ・ニュースポーツ等



● 映画上映会『東京家族』 ★上映時間 (午前10:00～12:26 午後13:30～15:56)

※詳しくは、9ページをご覧ください。

第5回 海陽町体協杯ソフトバレーボール大会

於：海陽中学校体育館

平成25年3月16日(土)、海陽町体育協会主催のソフトバレーボール大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。試合結果は、次のとおりです。



ミックス40歳以上

優勝…穴喰ソフトバレーボールクラブ杉の子
準優勝…チームIプラス1

	チーム名	セット	得点	チーム名
1試合目	チームIプラス1	0-2	7-15 7-15	穴喰ソフトバレー ボールクラブ 杉の子
2試合目	穴喰ソフトバレー ボールクラブ 杉の子	2-0	15-13 15-3	フリースタイル
3試合目	フリースタイル	0-2	9-15 9-15	チームIプラス1

青年(男子)

優勝…マジ! 20代×2

本気! 20代 2-0 マジ! 20代×2
15-2
15-9

ミックス60歳以上

優勝…海陽愛あいクラブ

海陽愛あいクラブ 2-1 ひよこ
14-16
15-5
15-6



第6回 海陽町体協杯バドミントン大会

於：海陽中学校体育館



平成25年3月24日(日)、海陽町体育協会主催の体協バドミントン大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。試合結果は次のとおりです。

男子1部 シングルス

優 勝…横山 直人 (日和佐クラブ)
準優勝…橋本悠太郎 (まぜ)

男子2部 シングルス

優 勝…生田 憲一 (穴喰クラブ)
準優勝…猪本 高文 (穴喰クラブ)

女子1部 シングルス

優 勝…富永 優子 (シャープ)
準優勝…吉岡 由樹 (穴喰クラブ)

女子2部 シングルス

優 勝…井上 京香 (相生BC)
準優勝…庄野 若葉 (相生BC)

男子1部 ダブルス

優 勝…久保見 卓・横山 直人 (日和佐クラブ)
準優勝…高田 慎吾・池本 弘明 (穴喰クラブ)

男子2部 ダブルス

優 勝…徳本 一郎・田村 義和 (まぜ)
準優勝…川上 功洋・武田 富博 (日和佐クラブ)

女子1部 ダブルス

優 勝…富永 優子・上野ひとみ (シャープ)
準優勝…吉岡 由樹・吉岡 藍 (穴喰クラブ)

女子2部 ダブルス

優 勝…岩佐 祥子・豊田 理恵 (まぜ)
準優勝…下平ゆかり・門田 里美 (まぜ)

1部ミックスダブルス

優 勝…和田 洋希・富永 優子 (シャープ)
準優勝…池本 弘明・吉岡 由樹 (穴喰クラブ)

2部ミックスダブルス

優 勝…岡久 文保・岩佐 祥子 (まぜ)
準優勝…下平 一太・門田 里美 (まぜ)



史跡大里古墳

県文化財指定60周年記念シンポジウム



町立博物館では、平成二十五年三月九日(土)に、「史跡大里古墳 県文化財指定六十周年記念シンポジウム」を開催し、当館エントランスロビーの会場には町内外より七十名の参加者が集いました。海陽町大里浜崎にある大里古墳(大里2号墳)は、昭和二十七(一九五二)年六月二十五日に徳島県の県史跡第一号に指定され、この度平成二十四年度、六十周年の記念シンポジウムの実施に至りました。来賓として、徳島県教育委員会教育文化政策課の湯浅利彦課長より記念行事の祝辞を頂戴しました。

第一部においては、徳島大学名誉教授で東アジア考古学が専門の東潮氏による基調講演「大里古墳と東アジアの横穴式石室」が行われました。つづいて第二部では、東潮氏と、阿波学会会長の小林勝美氏、そして海陽町立博物館協議会会長の岡田一郎氏の三名をパネラーに迎えてのパネルディスカッション「史跡大里古墳について」が開かれました。それぞれ三名のパネラーから大里古墳との関わり、考古学上の位置づけ、保存活用についてお話を伺いました。発掘当時の思い出、古墳づくりに使われた石の運搬方法のこと等々、大里古墳をめぐる様々な観点からの話題が提供され、会場一杯の参加者は最後まで熱心に耳を傾けていました。

また、本シンポジウムを記念した企画展「古人の世界―徳島県南部の遺跡出土品から―」を



穴喰俳句

三月例会より

電濃し音のみ聞こえ救急車 鍛冶田 展
 ハイカラなスーツ姿や春の昼 井花 一山
 春眠やはらかき月西空に 間戸谷恵子
 鍛冶屋の火消えて幾年離の家 元木 朱子
 春眠が対戦相手テスト中 新井 駿也
 薄氷子供のように踏んでみる 梅田千恵子
 納棺に二人の幼な菊そえる 青山ツネ子
 滔々として春の水流れをり 藤川 照子
 肺炎の予防接種や春霞 阿津 敏美
 春一番路地から路地へかけてゆく 新井久実
 恋終えて猫にやさしき声もどる 中岡 啓泰
 落椿ゆつくりと川流れゆく 中島 時
 二月尽耐震工事やつと終え 陸田ヨネ子
 濡れながら色深めおり花菖蒲 原 よしえ
 女ひとり入り草やぐ梅の園 中岡 弥生
 梅の香のただよふ山門真正面 寺崎 照代
 春の日や天までとどく幼声 陸田かずし
 蝶々ややがて限界集落に 木下 野生

海南俳句

三月例会より

囁りや夢のつづきはまたあした 田中たち子
 兄の歳越して形見の冬帽子 富田 開二
 読めぬ字も書けぬ字もあり春炬燵 谷口洋根子
 長閑さや小さき島の船溜り 谷崎 丈雄
 蝶生まる手押し車の花束に 武知 陸子
 親友の電話に目刺し焦がしけり 鍛冶崎郁夫
 満開の花びら受けて廃校舎 岡田賀代子
 春一番こわばりしもの解き放ち 山本 達平
 日脚伸ぶ下校の児等の声はずみ 森 浩子
 空家増え強東風きびし里離れ 平道はつ子
 啓蟄や土さらさらと青い空 西澤 初江
 うぐいすの声を合図にとる朝餉 津川須美江
 種袋振りて目覚めを促せり 廣瀬 克子
 川筋を行商の祖父母山霞 叶岡 陽二
 啓蟄や旅のはなしもちらはらと 橋本 幸子

海部ひまわり俳句

新しき学問に会い青き踏む 津田 一
 海部川奥へ奥へと八重霞 西本 公明
 学問を断ちたる悔いも古火鉢 歌 たゆ
 サーフアールとびこんでゆく春怒濤 坂本 素子
 日向ほこ左にルーベ右に辞書 榊原 礼子
 針野藤潮仕立ての梶づまに 南 歌子
 北風やまた一つ店とざされて 松田 嘉子
 菜の花の明り一面河川敷 元木 美枝子
 川沿いのマラソンコース風光る 佐藤 美代子
 山道で腰をおろせばやぶ椿 穴戸 道子



海南短歌会

満開の川津桜の並木道花は光り映え人を包めり

蛭子美恵子

うつろいてはや五十年母の忌の香のくゆり香わがまことなる

大久保スエ子

届かざる真意は常にあるものをそのままにして悪人となる

土谷公代

春の雨につとに伸びたる雑草の畑にひねもす草抜きいたり

宮川満江

山の手の畦に顔だす路のとうそつと類なで風とおりのゆく

魚見妙子

羽化をなす心地に軽き春ごろも犬三匹と土手道をゆく

細野綾子

穴喰短歌会

渚辺を背負ひて駆けし孫は今二十歳となりて潮風の中

大黒千枝美

しなやかに樹々は芽吹きてなびくなり清しき音に心安らぐ

石井町子

露の香を厨に運ぶ休日よ充日感にひたりし一日

山崎千栄子

穏やかな海面に向ひ佇めば津波の恐怖が脳裏を巡る

桑野亀乃

東北の一本松に願ひこめ声なき声の聞こゆる朝

舩谷侑子

そこはかと香り漂ふ心地して山路に淡くさくら咲き初む

三野みよ子

全世界に世界連邦広めむとせし先人の思ひに触るる

田井晴代

網代川柳 三月句会より

歩いても進む歩幅に老い感じ

中村あかり

進退は妻の手旗に頼りおり

山本三久

進学の荷に大望が詰めてある

風呂谷いずみ

進む世も老老介護にギブアップ

高木柳月

洗車した車一面降る黄砂

椎崎日和

何もかも洗い流して核残し

福岡純山

今朝もまた一人前の米洗う

井上可楽

水洗いで落ちる程度の未練です

北川弥生

幸せの種蒔き終えた父の道

太田一洋

身に過ぎた幸せなくて今日の無事

石垣小道

平凡の中に幸せひそと居る

黒岩一平



トピック

町指定有形文化財（考古資料）

大里二号古墳出土品

昭和26年8月、大里二号古墳発掘調査の時に出土した遺物である。大里二号古墳は翌年6月25日に、大里古墳として徳島県の史跡第一号に指定された。

耳環（写真上）1、杯蓋2、杯身3、椀1、高杯蓋1、有蓋高杯（写真中）2、無蓋高杯1、提瓶（写真下）1、平瓶1、壺1が現存し、町立博物館に収蔵、展示している。

写真の遺物3点のうち、装身具の耳環は左右幅3.11cmで、銅芯に鍍金銀板を巻いている。須恵器の有蓋高杯は器高19.8cmで、脚部に長方形のスカシを三方向より入れている。須恵器の提瓶は器高10.5cmで、外面の一部に自然釉がかかる。

遺物の年代は、これらの副葬品や横穴式石室の形態から考察すると、6世紀から7世紀にかけての時期と考えられる。

